

2019 年度大館市農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本地域の水田農業経営は、水稻を主とし、枝豆・アスパラガス・山の芋等の地域振興作物を加えた複合経営を行っている。しかし、依然として主食用米への依存が高い状態にあるため、米価の下落や災害による農業収入の減少が懸念されている。また、慢性的な担い手不足、農家の高齢化が深刻化しつつあり、それに伴う耕作放棄地の増加も見逃げない課題となっている。

産地化が図られている比内地鶏は、平成 25 年度に大館市比内地鶏糞処理施設(愛称：ヒナイドリームセンター)が稼働したことにより、堆肥の産地消費が進みつつあるが、さらなる出荷羽数の増加とイメージアップが求められている。

果樹はりんご、和梨を主に産地化が図られ、地域ごとに防除組合が組織されているが、近年は販売価格の低迷や高齢化が課題となっている。

葉たばこは日本たばこ産業株式会社への契約出荷であり、転作田を中心に栽培されているが、農家の高齢化と後継者不足が懸念されている。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

地力の向上と基本技術の徹底により高品質・良食味米の安定生産対策を進めるとともに、消費者が求める安全・安心な米づくりへの取組を推進する。また、消費者・市場ニーズを的確に把握するため、関係機関と連携を取りながらマーケティング活動を展開し、ブランド力の再構築を推進・実践する。

基盤整備については、大規模圃場整備を推進するとともに、担い手への水田の利用集積を促進し、規模拡大による低コスト生産を目指す。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

水田の有効活用による食料自給率の向上と需要に見合った飼料用米の生産を目指し、市の単独助成を活用しながら需要に応じた生産拡大を図る。また、産地交付金の追加配分を活用し、多収品種の導入を推進していく。

イ 米粉用米

米粉を利用した料理教室の開催や農商観連携による加工・商品化により需要拡大を図る。また、産地交付金の追加配分を活用し、多収品種の導入を推進していく。

ウ 新市場開拓用米

減少する米の国内消費を踏まえ、米農家の所得向上を図っていくためには、新たな消費を見だし、推進していくことが重要であることから、将来の需要の受け皿として積極的に推進し、新たなマーケットを切り拓いていく。

エ WCS用稲

飼料用米の取組と併せて、耕種農家と畜産農家の結びつきを強化しながら、国や県の事業を活用して生産環境の整備を進め、時勢を見ながら対応していく。

オ 加工用米

加工用米の需要動向を的確に捉えるとともに、担い手への集積をすすめ、実需との結び付きを強めながら取組を推進する。

カ 備蓄米

主食用米に次ぐ価格帯であることから、主食用米の価格下落のリスクをヘッジするため一定量を確保していく。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦については、振興しない。

大豆については、適期収穫、選別の徹底による品質の向上と均質化を図り、産地交付金を活用した担い手による集積・団地化の取組を推進する。また、単収向上・高品質生産につながる排水対策の徹底を推進し、生産拡大を図りながら産地化を目指す。

飼料作物については、水田を活用した自給飼料の生産を推進するとともに、良質な堆肥の農地還元による資源循環の取組を推進し、耕畜連携による安全・安心な飼料作物の生産を図る。

(4) そば、なたね

そば、なたねについては、不作付地の有効活用作物として位置づけ、作付拡大を図る。また、担い手による単収向上・高品質生産につながる排水対策の徹底を推進し、生産性向上対策を講じながら生産拡大を図り産地化を目指す。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

重点戦略作物（枝豆、アスパラガス、山の芋、きゅうり、とんぶり、ねぎ、小玉スイカ、花き、葉たばこ）を設定し、産地交付金を活用し生産拡大を図りながら産地化を目指し、所得の増収につながる作物の生産に取り組む。特に、販売額1億円以上を目指せる枝豆・アスパラガス・山の芋の3品目については、最重点戦略作物として需要に応じた産地づくり・団地化に取り組む。

推進作物として、耕作放棄地の解消と所得の増収のため、カボチャ、キャベツの作付を推進する。

(6) 畑地化の推進

主食用米の需要が年々減少する中、需要に応じた米の生産・販売を進めるとともに野菜等の高収益な畑作物の本作化を進めるため、また、単位面積当たりの生産性を高めていくためにも、畑地化による排水改善や作業効率の向上を進めていく。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の 作付面積 (ha)	当年度の 作付予定面積 (ha)	2020年度の 作付目標面積 (ha)
主食用米	3,280	3,268	3,268
飼料用米	460	420	420
米粉用米	6	46	46
新市場開拓用米	16	13	13
WCS用稲	1	1	1
加工用米	254	254	254
備蓄米	17	33	33
麦	0	0	0
大豆	237	244	244
飼料作物	75	83	83
そば	35.50	36.30	37.10
なたね	0	0.7	0.7
その他地域振興作物	319.51	332.64	339.01
枝豆	237.19	241.43	246.22
アスパラガス	26.53	27.00	27.50
山の芋	16.54	18.01	18.02
とんぶり	6.08	6.37	6.43
きゅうり	2.32	2.72	2.74
ねぎ	5.66	6.57	6.98
花き(別表1)	3.05	4.76	5.01
小玉スイカ	1.87	1.96	2.12
葉たばこ	13.33	16.82	16.84
カボチャ	4.13	4.15	4.25
キャベツ	2.81	2.85	2.90

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	用途名	目標	前年度(実績)	目標値
				(2018年度)	(2020年度)
1	枝豆、アスパラガス、山の芋、とんぶり、きゅうり、ねぎ、花き(別表1)、小玉スイカ(基幹作物)	地域振興作物への助成 ①	地域振興作物の作付面積	299.24 ha	315.02 ha
2	葉たばこ(基幹作物)	地域振興作物への助成 ②	地域振興作物の作付面積	13.33 ha	16.84 ha
3	カボチャ、キャベツ(基幹作物)	地域振興作物への助成 ③	地域振興作物の作付面積	6.94 ha	7.15 ha
4	飼料用米の生産ほ場の稲わら(基幹作物)	耕畜連携助成(わら利用)	飼料用米の生産ほ場の稲わら利用面積	0 ha	1.30 ha
5	飼料作物(別表3)(基幹作物)	耕畜連携助成(水田放牧)	水田における牛の放牧の取組面積	1.77 ha	2.10 ha
6	大豆(種子大豆・黒豆・青豆を含む)(基幹作物)	大豆の団地化への助成	1ha以上の連坦団地面積 10a当たり収量	3.15 ha 70kg/10a	3.31 ha 110kg/10a
7	大豆(種子大豆・黒豆・青豆を含む)(基幹作物)	大豆の集積への助成	4ha以上の集積面積	218.42 ha	218.58 ha
8	加工用米(基幹作物)	加工用米(認定農業者・認定新規就農者・集落営農)への助成	バラ出荷形態の取組面積 玄米1tの荷役にかかる労働時間	82.20 ha 70分/玄米1t	89.72 ha 62分/玄米1t
9	飼料用米、米粉用米(基幹作物)	飼料用米・米粉用米の多収品種への取組支援	多収品種作付面積 飼料用米10a当たり収量 米粉用米10a当たり収量	111 ha 550kg/10a 444kg/10a	210 ha 565kg/10a 517kg/10a
10	そば、なたね(基幹作物)	そば、なたね作付の取組支援	そば、なたね取組面積	35.50 ha	37.80 ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。

5 産地交付金の活用方法の明細

詳細は、大館市農業再生協議会事務局(大館市産業部農林課)へお問い合わせください。